

netXDC 千葉第2センターを開設 ～公共・金融機関にも適合する安全性と信頼性を実現～

SCSK株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:大澤 善雄、以下SCSK)は、国内9拠点目となる新データセンター「netXDC 千葉第2センター(以下当センター)」の建設を完了し、SCSKの「安全・安心なデータセンター」(ティア4準拠)の中核拠点として、5月1日からサービス提供を開始しました。

なお、当センターの開設により、SCSKの全データセンターの延床面積は約70,000㎡となりました。

1. 環境・設備

(1) 安全性

当センターは、近隣に主要活断層が無く強固な洪積台地の地盤であり、海岸から20km以上離れ海拔22.5mに位置しているため、事業継続上不可欠となるデータを大規模な災害や障害から守ります。

(2) 信頼性

横揺れ対策としての基礎免震構造に加え、縦揺れ対策に垂直制震ダンパーを採用することで、地震の揺れを最大80%減衰させます。さらに電源供給では異なる変電所2系統からのループ受電により、当センターまでの経路が二重化されています。一方の経路で障害が発生した場合、残りの経路で受電が行える安全設計になっています。障害時には、無給油連続72時間運転可能な自家発電装置を有し、災害時の給油体制では専門業者と優先供給契約を締結し、給油が途切れることなく電源を供給することができます。また、外部に接続するネットワークは、異局接続で提供しており、柔軟な設計による冗長化を可能としています。

2. 運用

当センターは隣接するnetXDC千葉センターと体制を一元化し、既の実績あるサービスマネージャーと運用のベストプラクティスを体系化したITIL®に準拠したプロセス、サービス提供状況を可視化した基盤の三つを組み合わせることで、高品質なITサービスを提供しています。さらにオペレーションを自動化することで、人的ミスの排除や効率化を実現しています。またSCSKが運営する全データセンターを接続するネットワークは経路全てが冗長化されています。これにより、兵庫県三田市で運営する郊外型データセンター「netXDC三田センター」とのディザスタリカバリー連携においても、高いビジネス継続性を確保しています。

3. netXDC 千葉第2センター概要

所在地	: 千葉県印西市
建物設備規模	: 延べ床面積 15,600㎡、受変電容量 20,000KVA 最大 3,200KVA/フロア
対応スペック	: 平均消費電力 8KVA/ラック、床荷重 1,500kg/㎡
セキュリティ設備	: 入退管理システム、TVカメラ監視、赤外線センサー、セキュリティゲート、X線検査装置、金属探知機、生体認証など
ISO認証	: ISO9001、ISO14001、ISO20000、ISO27001、ISO22301 各認証取得
各種認証	: FISC、JEITA、JDCC(ティア4)の各規定に準拠
環境性能	: 目標 PUE 1.3、外気利用(夏期:循環運転、中間期:外気運転、冬期:混合運転)、省エネ照明制御他、各種施策の採用

図 1: netXDC 千葉第2センター外観



図 2: 垂直制震ダンパー

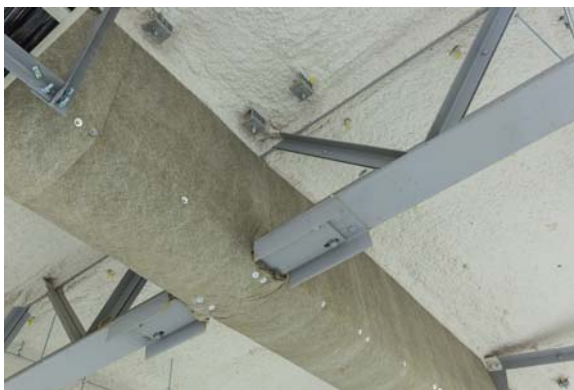
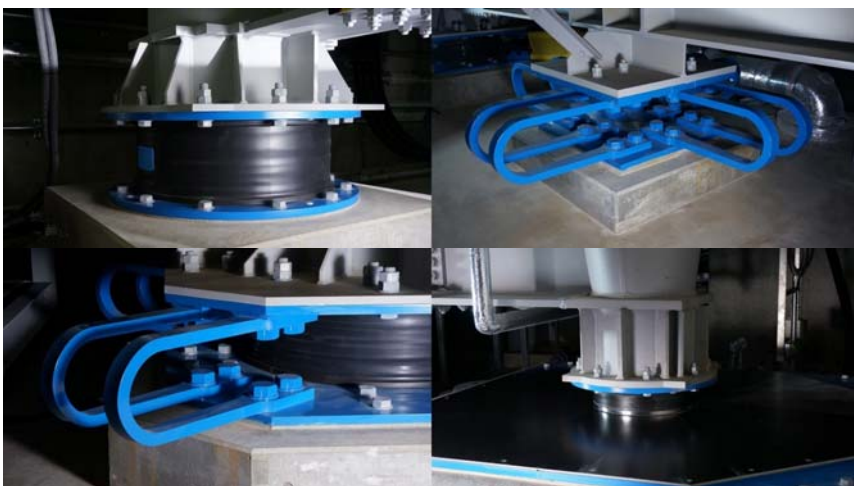


図 3: 基礎免震構造としてのハイブリッド免震システム



4 種類の積層ゴムアイソレータやダンパー

本件に関するお問い合わせ先

【製品・サービスに関するお問い合わせ先】

SCSK株式会社

ITマネジメント事業部門

netX データセンター事業本部 netX 営業部

データセンター営業課 粕谷

TEL:03-5166-1971

【報道関係お問い合わせ先】

SCSK株式会社

広報部 西広

TEL:03-5166-1150

※記載された内容は発表日現在の情報です。また、文中に記載された会社名および製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。